

2009年度大会記録

2009年度は、第11回大会を昭和女子大学にて2日間にわたり開催しました。今となってはいささか過敏な反応であったようにも思われますが、新型インフルエンザによる開催中止も考慮しなければならない大会となりましたが、熱心な会員および非会員の皆様の参加があり、無事プログラムを終了しました。なお、いつもながらに、会場校の先生・学生の皆様に大変お世話になりました。末筆ながら書面にて御礼申し上げます。
(山川和彦)

日本言語政策学会第11回大会

大会テーマ：移民社会と言語政策

日 時：2009年6月13日（土）13：00～17：30

6月14日（日）10：00～17：30

会 場：昭和女子大学（東京都世田谷区）

6月13日（土）

総合司会 李守（昭和女子大学）

13：00～13：15 開会の辞 田中慎也（日本言語政策学会会長）

会場校挨拶 金子朝子（昭和女子大学副学長）

13：15～14：15 基調講演
「移民社会と子どものための言語政策—カナダ・米国の事例を踏まえて—」
中島和子（トロント大学名誉教授）

14：30～17：30 シンポジウム

「共生に向けた言語政策の将来的方向性：地域からの発信」

パネリスト 加藤庸子（NPO 浜松日本語・日本文化研究会代表）

猿橋順子（青山学院大学）

杉野俊子（防衛大学校、兼司会）

成瀬敏夫（エスコラ・ブラジル校長）*

*当日は、吉岡シーロ（ブラジル人学校コニェセル校長）に変更

18:00~19:30 懇親会 人見記念講堂地下「プレリユード」 会費 3,000 円

6月14日(日)

【80年館5階5S31教室】

10:00~11:30 事例報告 司会 仲矢信介(東京国際大学)

—アクター構造から見る、孔子学院—ソフト・パワー実現手段としての役割検証—

李 昊澤(筑波大学・院生)

—韓国の言語・教育政策と日本語の継承—

—在韓日本人妻と日韓国際結婚家庭を中心として—

花井理香(関西学院大学・院生)

—グローバル・ローカルな視点からみた対外言語教育機関

—タイにおける対外言語教育機関を中心として—

山口雅代(名古屋外国語大学・院生)

11:30~12:00 研究報告

司会 杉野俊子(防衛大学校)

「日本人」の英語使用・英語学習経験の規定要因

寺沢拓敬(東京大学・院生)

【80年館5階5S01教室】

10:00~11:00 研究発表

司会 細川英雄(早稲田大学)

—国際化施策における書き言葉使用の管理—

金子信子(千葉大学・院生)

—公共性の高い文章における日本語表記の在り方—仮名で書くか、漢字で書くか—

斎藤達哉(国立国語研究所)

11:00~11:30 事例報告

司会 村岡英裕(千葉大学)

—地方自治体における「やさしい日本語」の取組み—

—アンケート調査を通じて大阪府内三つの市の現状をみる—

ウーワイシェン(大阪大学・院生)

【80年館5階5S32教室】

10:00~11:30 パネル発表

—中国少数民族における言語維持・言語継承の諸問題—

—モンゴル族と朝鮮族のばあい—

佐藤喜之、フフバートル、李守(昭和女子大学)

【80年館6階オーロラホール】

13:00～13:20 総会

13:30～14:30 基調講演 西原鈴子（元日本語教育学会会長）

「言語政策の可能性—今しなければならないこと—」

14:30～17:30 シンポジウム

「緊急提言：21世紀型日本の言語政策に求めるもの」

パネリスト 尾崎明人（日本語教育学会会長）

木村哲也（杏林大学）

中山暁雄（国際移住機関（IOM）駐日代表）

田中慎也（日本言語政策学会会長）

司会 宮崎里司（早稲田大学）

17:30～ 閉会の辞 橘 好碩（國學院大学、日本言語政策学会副会長）